

令和3年2月現在

「安全の手引き」



在バルバドス日本国大使館

はじめに

日本とは違う海外事情

日本は世界の中で最も治安のよい国の一つです。それゆえに日本での生活に慣れ親しんだ日本人が海外へ出向いた際には、予想もしない事件や事故に巻き込まれるケースが多く見受けられます。海外では、日本と違った危険が待ちかまえており、皆さんは、常に事件や事故と隣り合わせの環境にいるといっても過言ではありません。

海外では、皆さん一人ひとりが海外用の「知識」と「意識」を持って、それを「実践」することが大切です。

○ 渡航先・滞在先の十分な知識を持って

渡航先、滞在先の治安状況や犯罪の傾向・手口、法律や習慣を知っておくことで、多くの事件・事故は防ぐことができます。渡航先に関する治安状況や安全対策等について関心を持ち、予備知識を得ておきましょう。

○ 意識を海外モードに

渡航先・滞在先について収集した知識を実際の危機回避に活かすためには、意識を常に海外モードにしておく必要があります。こうした意識が予期しない危機に遭遇した場合、とっさの判断や行動で被害を防ぐ（被害を最小限にとどめる）ことを可能にします。

○ 実践の積み重ねと習慣づけで危険を回避

日頃から小さな実践を積み重ね、よい習慣づけにより、狙われる機会が減り、危険を遠ざけることができます。

自分の身は自分で守る

1 危険な場所には近づかない

「クーデター・内乱・暴動などが発生し政情が不安定である」、「テロ事件発生の可能性がある」などにより、危険な場所があります。これらの場所については、渡航すること自体を含めて慎重な検討が必要です。

また、そのような場所ではなくても、殺人や強盗などの凶悪犯罪が多発する場所もあります。これらについては、危険の性質や度合いを十分に調べて、不用意に近付かない、夜間の外出や一人歩きを避けるという心掛けが大切です。

2 多額の現金・貴重品は持ち歩かない

海外では、日本人は多額の現金や貴重品を持っているという先入観を持たれている場合が多く、強盗やひったくりなど、財産被害犯罪のターゲットにされるケースが多くあります。最近では、貴重品を外から分からないように、袋に入れ首からシャツの下に吊したり、上衣の内側のポケットに収納して持ち歩いたりする場合でも、強引に奪い取られるケースも見られます。

したがって、外出する際には、貴重品はホテルのセーフティボックスに預ける、買物はクレジットカードを使うといった工夫で、多額の現金や貴重品はできるだけ持ち歩かないようにする対策が必要です。

旅券（パスポート）については、コピーの携帯を認められている国もありますのでそれらの国では、現物はみだりに持ち歩かないようにすることも必要です。

3 犯罪被害にあっても抵抗しない

注意はしていても、犯罪被害に遭うこともあります。海外では犯罪者の多くが凶器を所持しています。また、犯罪者はグループで犯行に及ぶことが多く、一見単独に見えても近くに仲間がいる可能性が高いものです。特に、強盗や恐喝にあった場合、犯人の要求に速やかに応じないと、犯人を苛立たせてしまい、凶器を使用される可能性が高くなります。

万一犯罪被害に遭ってしまったら、身の安全を第一に考え、犯人の要求にできるだけ抵抗しない態度を示すことが必要です。

4 見知らぬ人を無条件に信用しない

旅先で知り合った人の優しさに対するちょっとした気の緩みから、だまされて被害に遭う旅行者がたくさんいます。睡眠薬強盗、いかさま賭博、偽ガイドなど、海外での犯罪手口は多様で巧妙です。旅行先で見知らぬ現地の人たちと知り合うことは旅の醍醐味でもありますが、それにつけ込んだ犯罪は後を絶ちません。少しでも怪しいと感じたら、ためらわず断りましょう。特に、安易にその人の家に行ったり、すすめられた物を食べたり飲んだりするようなことは避けましょう。

5 親しくなっても一線は譲らない

旅先で会う人は魅力的に見えるようです。つい話が弾みお酒を飲みながら深夜まで親しく交流する方がおられますが、お酒でこちらのガードが甘くなれば、相手に下心が芽生えるかもしれません。言葉が通じにくいことから勘違いが生まれやすく、はっきり態度で示さなければ相手がもう一押ししようとするのも無理はありません。後で警察に訴えても、被害を受けた記憶は残り、後々まで悔やむこととなります。楽しい時間であっても早めに切り上げることが大事です。

6 買い物は信用のおける店を選ぶ

海外での買い物では、品物が粗悪であったり、注文したものと違っていたりし

た場合に、後で苦情を言ったり、弁済を求めることは非常に難しいものです。このような事情を利用して、特に観光地などでは外国人旅行者を対象に、粗悪なものを高く売りつけたり、旅行者のクレジットカードを悪用したりするといった悪質な店があります。

まず、信用のある店を選ぶこと、そして品物をよく確認することが大切です。また、クレジットカードを使う際には、サインをする前に金額が間違っていないか、通貨の単位が記入されているか、しっかりと確認し、疑問や不明なことはその場で確認しましょう。

7 ホテルの中でも安心しない

ホテルの部屋を自分の家のように考えることは危険です。ホテルに着いて一安心する隙をねらい、ロビーでの置き引き被害やエレベーターや部屋で強盗の被害に遭うこともあります。特に格安のホテルでは、セキュリティも不十分なため、同宿者による犯罪も多く発生しています。また、高級とされるホテルでも、従業員を装って犯行に及ぶ場合もあります。部屋に居るときは、必ず防犯チェーンを掛け、ロックされても不用意にドアを開けず、まず相手を確認するといった基本的な防犯対策を心がけましょう。

外務省窓口

外務省では、海外安全情報専門のホームページを開設しています。このホームページは、外務省の発出する「渡航情報（危険情報、スポット情報、広域情報）」がタイムリーに掲載されるほか、180以上の国・地域別の「安全対策基礎データ」等が掲載されています。

〒100-8919 東京都千代田区霞が関2-2-1

外務省 領事サービスセンター（海外安全担当）

電話（代） 03-3580-3311（内線2902、2903）

9：00～12：30／13：30～17：00（土・日・祝祭日を除く）

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

～「海外安全 虎の巻」（外務省編纂）参照～

バルバドス

I 防犯の手引き

(1) 防犯の基本的な心構え

海外での生活において「安全対策をし過ぎる」ということはありません。被害に遭った人は皆、「よりによってどうして自分が？」と言います。「自分は大丈夫！」という過信を捨てて、安全対策を見直しましょう。

(2) 最近の犯罪発生状況

バルバドスは観光業が国の大きな収入源であることから、政府は治安対策を重要な課題として取り組んでいます。空き巣、窃盗、強盗、性犯罪などが多く発生しています。近年では銃器を用いた犯罪が急増しており、大きな社会問題となっています。年間重犯罪（殺人等）件数は、2018年は617件であったのに対し、2019年は558件であり、統計上は減少していますが、麻薬売買や、武器の密輸等が無くなった訳ではありません。

なお、2020年の統計はまだ公表されていませんが、治安が良くなったとは言えない状況です。

また、バルバドスはカリブ諸国の中では比較的治安が良いとされていますが、人口あたりの犯罪件数は日本の十数倍であり、これらのことから、決して治安が良い訳ではないことを理解する必要があります。

(3) 防犯のための具体的注意事項

ア 住居防犯

○ 住居の選択

警備員が常時駐在するビル型又はタウンハウス型の共同住宅が比較的安全と言えます。独立一戸建の場合は、番犬や警報設備の設置などを検討してください。

○ 住居の警備方法

- ・ 施錠式ゲートの付いたしっかりした外塀があることが望ましく、必要に応じて有刺鉄線などを設置することをお勧めします。
- ・ 敷地内に入るゲートには24時間体制で警備員を配置することをお勧めします。

- ・ 夜間に暗がりをつくらないために、外灯などの照明機材を設置することをお勧めします。
- ・ 外部から侵入が可能な窓には、頑丈なバーグラー・バー（防犯柵）を設置することをお勧めします。
- ・ 警報装置（出来れば警備会社と自動リンクしたもの）を設置することをお勧めします。
- ・ 必要があれば番犬を飼うことも有効です。

イ 外出時の注意事項

○ 外出するとき

- ・ 夜間の外出はできるだけ控えましょう。
- ・ 暗い場所や人がいない場所を歩かないようにしましょう。
- ・ 夜間の一人歩き、女性グループだけの行動はしないようにしましょう。
- ・ 最低限の現金を持ち、貴金属や宝石などの装飾品は身に着けないようにしましょう（必要な場所で着脱するなどの工夫が必要）。
- ・ 場所によっては、両手がふさがりような沢山の荷物を持たないようにしましょう。
- ・ ID（免許証など顔や居所がわかるもの）と家の鍵は別々に持つようにしましょう。
- ・ 鞆などは必ず肩掛け（できるだけたすきがけ）などにして、肌身から離さないようにしましょう。

○ 買物するとき

- ・ 現金や財布を他人に見られないようにしましょう。
- ・ 少額の買物以外は現金払いを避け、カードなどを利用しましょう。
- ・ ATMは、人目があり建物内に設置されているものを利用しましょう。
- ・ 夜間の一人での買物は避けましょう。
- ・ レストランや映画館、化粧室等では財布やハンドバッグは膝の上に置くなどして身体から離さないようにしましょう。
- ・ 荷物は床に置いたり、空いている椅子や椅子の後ろに掛けたりしないで、常に目の届くところに置きましょう。

○ 自動車を利用するとき

- ・ 乗降時は必ず付近に注意を払い、他人が接近するタイミングや場所での乗降は避けましょう。
- ・ 年間を通じて暑い気候ですが、わずかな時間であってもエンジンをかけたまま運転席を空ける行為は避けましょう。
- ・ 運転中及び駐車中は窓ガラスを閉めてドアロックを掛けるようにしましょう。乗車したら、エンジンをかけるより先にまずロックすることが

肝要です。

- ・ 運転中、乗車中も、荷物類はトランクに入れ、座席など外部から見える位置に置かないようにしましょう。
 - ・ 故障して困っている人を見付けても、安易に停車して手助けするようなことは危険です。
 - ・ 車には盗難防止装置を取り付けて、車から離れる場合は短時間であっても施錠しましょう。
 - ・ 駐車場は見通しがよく、人目の多い明るい場所を選びましょう。
 - ・ 公共交通手段を使う場合は、あらかじめ小銭を用意し、財布や高額紙幣を取り出す機会をなくしましょう。
- 犯罪被害にあったとき
- ・ 原則として抵抗しないようにしましょう。
 - ・ 警察と大使館にすぐ連絡してください。（連絡先はP.9参照。）

ウ 生活面での注意事項

- 隣近所
- ・ 日頃から近所にはどんな人が住んでいるのか関心を持ち、確認しておきましょう。
 - ・ 緊急時に連絡が取れるように、日頃から良い近所付き合いに配慮しましょう。
- 訪問者
- ・ 必ずドアののぞき穴やインターホンで相手を確認しましょう。
 - ・ 心当たりや予定のない訪問者には十分注意し、安易に開けることは危険です。
 - ・ 不審だと思った場合は、迷わず警備員や警察に連絡しましょう。
- 使用人
- ・ 使用人には日頃から貴重品の所在を知らせないようにしましょう。
 - ・ 現金等を目につく場所に置かないようにしましょう。
 - ・ 過度の信頼は禁物です。
- 家族
- ・ 家族の行動予定は毎日確認しておきましょう。
 - ・ 緊急事態が発生した場合の連絡先などを、あらかじめ家族内で決めておきましょう。
 - ・ 携帯電話など、家族間の連絡手段を確保しておきましょう。
- 電話
- ・ 相手が信用できない、確認できない電話は、一旦切ってかけ直しましょう。

- ・ 電話で安易に個人的な情報（住所、身分、職場など）を話すことは控えましょう。

○ 郵便物

- ・ ドアを開ける前に必ず宛先と発送人を確認しましょう。
- ・ 宛先が分からない、明確でない、心当たりのない郵便物は安易に受領したり開封したりせず、警察等関係窓口に通報しましょう。
- ・ 配達人の業者名が不明確な場合には十分注意しましょう。
- ・ 臭いや液体漏れ、変な音がする場合は触らず、警察に通報しましょう。

○ 鍵

- ・ 家の鍵は財布やIDなどと一緒にせず、別々に保管するよう心掛けましょう。
- ・ できるだけメイド等の使用人には鍵を預けないようにしましょう。
- ・ 玄関などの扉には、2つ以上の錠前が付いたものや、暗証番号入力式機器などを併用すると効果的です。

○ 旅行

- ・ 旅行などで家を長期間空けるときは、信頼のおける人以外には口外しないようにしましょう。
- ・ 部屋や外灯の一部の照明を点けたままにするのも一案です。
- ・ 電気、電話、水道などの料金を事前に支払っておきましょう。
- ・ 警報装置の作動状況を確認しておきましょう。

(4) 交通事情と交通事故対策

ア 交通事情

当地の交通事情は決して良くありません。当地に鉄道はなく、交通手段は自家用車、タクシー、又はバスとなります。バスは番号によって行き先が違い、ある程度地名がわからないと使いづらいですが、国内各地をほぼ網羅しているため慣れると便利です。

道路は狭く駐車場が少ないため路上駐車及び路上停車が多いことなどから、恒常的な交通渋滞が問題視されています。また、雨天の際には道路の冠水が散見されます。

交通マナーの悪い運転手も一部見られ、交通事故が散見されます。また、地域によっては街灯やカーブミラーがないため特に夜間は歩行者に注意しましょう。

イ 交通事故防止対策

○ 歩行時

- ・ 必ず歩道や路肩を歩き、信号のないところでの横断には十分注意しましょう。
- ・ 青信号であっても、左右を確認するなど安全であると判断してから横断しましょう。特に信号の変わり目が危険です。

○ 運転時

- ・ 周囲のスピードに惑わされず、車間距離を保って余裕のある運転に心掛けましょう。
- ・ 無理をせず、慣れないうちは渋滞時の運転を避けるようにしましょう。
- ・ デコボコが多いなど舗装状態が悪いので、タイヤなど車の状態に関心を持ち、保守点検に心掛けましょう。
- ・ 特に幹線道路などでは高速走行車が多く、瞬時に後続車が近付いて無理な追い越しや車線変更をするので、特に右左折や車線変更時には後方左右への注意も必要です。
- ・ 道路には動物の死骸や落下物があり、夕立程度の雨で道路が冠水したり、がけ崩れが起こったりするなど、道路状態が瞬時に変わることもあります。
- ・ 車の故障や万一の事故などで困った場合の連絡先を控えておきましょう。

(5) テロ・誘拐被害対策

ア テロ被害対策

当地では国際テロに関する情報は確認されていませんが、近年の世界のテロ情勢からも日本人が国際テロのターゲットになる可能性が排除できないことから、常日頃から新しい情報をニュース等で確認するようにし、注意深い行動を心がけて下さい。

イ 誘拐対策

当地では誘拐事件はほとんど確認されていませんが、近年、銃撃事件や強盗、性犯罪等の凶悪事件が増加傾向にあり、結果的に誘拐に繋がるケースも起こり得るために注意が必要です。

幼児や学童生徒は常時保護者や学校職員の監護下に置くとともに、女性の単独行動にも十分注意する必要があります。知らない人から声をかけられたり、人通りの少ないところで同じ車がついてきたりする場合には、注意してその場から離れるようにしましょう。また、銀行からの帰り道等は、寄り道せずまっすぐ自宅へ帰るようにしましょう。

(6) 緊急連絡先

ア バルバドス政府関係

○警察：211

○消防：311

○救急：511

○総合病院：

・ Queen Elizabeth Hospital (公立) 436-6450

・ FMH Emergency Medical Clinic (私立) 228-6120 / 6121

・ Sandy Crest Medical Center (私立) 419-4911

○滞在許可等問い合わせ：

・ 入国管理局 535-4158

・ グラントレー・アダムス国際空港 535-4128

イ 日本大使館

○代表：538-5700

○開館時間：月～金の8:00～16:45 (昼休憩：12:00～13:00)

○休館日・時間外用(緊急時)：832-4915

○FAX：538-5701

○Website：www.tt.emb-japan.go.jp/index_japan_barbados.html

○大使館 E-mail：barbados@rt.mofa.go.jp

II 在留邦人用緊急事態対処マニュアル

(1) 平素の準備と心構え

テロや暴動、大規模事故や災害などの緊急事態に備えるため、日頃から報道等に関心を持ち、情報収集に努めるとともに次の事項の確認をお願いします。特に、当国を含むカリブ諸国はしばしばハリケーンの被害を受けるため、ハリケーン・シーズン（おおむね5～11月）には気象情報にも注意を払って下さい。

ア 連絡手段の確保

日頃から緊急時の家族の連絡先や連絡方法を把握、確認し、携帯電話等に登録する、連絡先の控えを持ち歩くなどに心掛けてください。

イ 携行品及び非常用物資の準備

非常用物資は各人で御用意願います。日頃から数日間過ごせる程度の保存食品や飲料水の他、下着類、ラジオ、携帯ライト等の確保をお願いします。

(2) 緊急事態発生時の行動

ア 基本的心構え

緊急事態が発生した場合は、慌てずに正しい情報に基づいて行動することが大切です。まずご家族や知人の無事と安全を確認するなど、連絡をとりあって行動しましょう。また、危険が迫っているような場所には近付かないでください。

イ 事実の把握

可能な限り、テレビ、ラジオ等の報道情報はもとより、当大使館からの

◎ E-mail（事前に大使館にメールアドレスを届けて頂いた方に配信）

◎ 当大使館ホームページ

（www.tt.emb-japan.go.jp/index_japan_barbados.html）

を確認してください。

ハリケーンなどは、位置や災害情報がインターネットで確認でき、外務省では海外安全情報をホームページで提供しています。

ウ 大使館との連絡網の確保

万一緊急事態に遭遇した場合には、警察等のほかに大使館にも御連絡くださるようよろしくお願い致します。

状況に応じて、大使館から皆様に電話などで安否の確認やお願いをする場合があります。自宅や仕事場など通常の連絡先から離れる場合には携帯電話を携帯し、周囲の人に居場所を明示しておくなど、連絡が取れるよう御協力をお願いします。

エ 避難場所

ハリケーンの襲来や暴動の発生など、危険・不穏な状況に遭遇した場合には、基本的に自宅などに待機し、みだりに出歩かないでください。

自宅などに居ることが危険又は不安であったり、電話や電子メールなどが通じなくなったりした場合には日本大使館（Building 2、Ground Floor、Chelston Park、Collymore Rock、St. Michael）に避難することを考えてください。

緊急事態に備えてのチェック・リスト 『在留邦人配布用』

1 旅券

- (1) 常時6か月以上の残存有効期間があることを確認しておいてください（6か月以下の場合には当大使館に再発給の申請をしてください）。
- (2) 旅券の最終頁の「所持人記載欄」は漏れなく記載しておいてください。
- (3) 下段に血液型（blood type）何型と記入しておいてください。
- (4) 当国における外国人登録証明書、ID等はいつでも持ち出せる状態にしておいてください。

2 現金、貴金属、貯金通帳等の有価証券、クレジットカード

- (1) これらのものは、緊急時には旅券同様すぐ持ち出せるように保管しておいてください。
- (2) 現金は家族全員が10日間程度生活できる外貨及び当座必要な現地通貨を予め用意しておくことをお勧めします（国により通貨持ち出し制限がある場合があるので注意）。
- (3) 出国する場合の出国税及び空港使用税（これらが必要な場合）の用意も必要です。

3 自動車等の整備

- (1) 自動車をお持ちの方は常時整備しておくよう心掛けてください。
- (2) 燃料は十分入れておくようにしてください。
- (3) 車内には、常時、懐中電灯、地図、ティッシュ等を備えおきください。
- (4) なお、自動車を持っていない方は、近くに住む自動車を持っている人と平素から連絡を取り、必要な場合に同乗できるよう相談しておいてください。

4 携行品の準備

避難場所への移動を必要とする事態に備え、上記1～3に加え次の携行品を備えて、すぐ持ち出せるようにしてください。

(1) 衣類・着替え

長袖・長ズボンが賢明。行動に便利で、殊更人目を引くような華美なものでないもの。麻、綿等吸湿性、耐暑性に富む素材が望ましい。

(2) 履物

行動に便利で靴底の厚い頑丈なもの。

(3) 洗面用具

タオル、歯磨きセット、石鹸等。

(4) 非常用食料等

しばらく自宅待機する場合も想定して、米、調味料、缶詰類、インスタント食品、粉ミルク等の保存食及びミネラルウォーターを、家族全員が10日間程度生活できる量を準備しておいてください。一時避難の目的で自宅から他の場所へ避難する際には、この中からインスタント食品、缶詰類、粉ミルクを、また、ミネラルウォーターを入れた水筒（大型が望ましい。）を携行するようにしてください。

(5) 医薬品

家庭用常備薬の他、常用薬、外傷薬、消毒用石鹸、衛生綿、包帯、絆創膏等。

(6) ラジオ

可能であればNHK海外放送（ラジオ・ジャパン）、BBC、VOA等の短波放送が受信できる電池使用のもの（電池の予備も忘れないようにしてください）。

(7) その他

懐中電灯、予備の強力バッテリー、ライター、ローソク、マッチ、ナイフ、缶切り、栓抜き、紙製の食器、割り箸、固形燃料、簡単な炊事用具、可能ならヘルメット、防災頭巾（応急的に椅子に敷くクッションでも可）等。

(了)